

9 家庭学習のすすめ

家庭学習のてびき(保護者用)

家庭学習の内容

1年生 : 宿題以外に自主学習もできるように少しずつ努力しましょう。
2~6年: 宿題+自主学習を続けられるように努力しましょう。

学習時間のめやす(10分×学年)

1年生	10分間	2年生	20分間	3年生	30分間
4年生	40分間	5年生	50分間	6年生	60分間



家庭学習における保護者の役割

- ① 学ぶための環境づくり
テレビや音楽等を消し、落ち着いて学習できるようにします。勉強する場の整頓も大切です。
- ② 学習時間の確保
無理のない時間設定をし、「必ず机に向かう」習慣を身に付けさせます。
- ③ 見届け・励まし
今日一日を一緒に振り返ったり、がんばりをほめたり励ましたりすることで、子供はやる気を出します。

1・2年生 学習習慣をしっかりと身に付ける

低学年は...

学習習慣の定着のためには、「早寝・早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」等、基本的な生活習慣を身に付けることが大切です。

学校での学習を基に家庭での学習内容や方法について家族が相談にのったり、できたことをほめたりすることによって、興味・関心を引き出し、意欲を高めていくことができます。

学習の特徴

「読み・書き・計算」等、基礎的・基本的な内容を学習します。繰り返し練習することで、力が付く学習内容が多くあります。また、生活と結び付いた学習が多く、具体物を使ったり実際に体験したりする学習が中心になります。「鉛筆を正しくもつ」「学習の準備をする」「整理・整頓をする」なども、基本となる学習です。

家庭での援助

- ① 学校で学習したことや明日の予定等について一緒に確かめ、学習内容や方法を明確にしましょう。
- ② 学習時間を決めて、毎日の宿題を最後まできちんとできるようにさせましょう。根負けせず、粘り強く働きかけることが大切です。
- ③ 子供にできる仕事を見付け、継続させましょう。一緒に買い物をしたり、時計を読んだりしながら、生活経験を増やすことができます。

3・4年生自ら机に向かう姿勢を育てる



中学年は・・・

自立心が芽生え自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。言葉の獲得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになっていわれています。

「勉強が難しくなった」という戸惑いや苦手意識をもつ子供も出てきます。「がんばり」を見逃さずに、本気でほめましょう。

学習の特徴

調べる学習の場が増え、自学自習の基礎を学びます。分数や小数等、少しずつ抽象的な内容も学ぶようになります。

家庭での援助

- ① 家族の温かい助言や励ましの言葉でやる気を起こします。宿題や持ち物を点検するなどの手助けが必要ですが、徐々に自分でできるように支援していきましょう。
- ② 宿題以外の自主的な学習に取り組ませましょう。興味をもったことを調べたり、少し難しい問題に挑戦したりするように励ましてください。家事を分担し、進んで行くことも、立派な学習です。学習の成果が残るように、やったことや思い等をノートに書かせましょう。
- ③ テレビやゲームは時間を決めます。けじめをつけることが、自立心や学習への集中力を育てることにつながります。根負けせずに、アドバイスを続けましょう。

5・6年生 自ら予定を立て、自力で学習を進める

高学年は・・・

生活リズムの乱れが勉強嫌いにつながります。もう一度生活習慣を見直し、計画的に学習を進めることが大切です。

時には大人への反抗も見られますが、先生や家族のアドバイスによって、学習に対する意欲や興味・関心を高めていきます。目標を決めて努力できるように励ましましょう。

学習の特徴

学習内容が多くなり、論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。自分で課題を見付け、解決していく学習が多くなり、筋道を立てて考える力や広い視野でものごとを見る力を身に付けていきます。

家庭での援助

- ① その日の予定を立て、見通しをもって学習させましょう。学校での学習を振り返りながら、苦手な内容にも粘り強く取り組むよう励ましましょう。
- ② 子供に将来の夢や希望、勉強する目的や勉強方法、学校の学習の様子や親の失敗談等を話題にし、目標をもって努力することの大切さを伝えましょう。どれだけがんばったかが大切です。
- ③ 家事の分担も積極的に進めましょう。家族の一員として役割を自覚することは、責任感と自立心を育てることにつながります。